

病院の受診方法も  
考えてみませんか

かかりつけ医

日ごろから健康状態を診てもらえる「かかりつけ医」を持ちましょう。  
初期の受診も開業医であれば、比較的短い待ち時間で診察が受けられます。

救急外来

緊急に治療が必要な患者さんのための救急外来。日中は混んでいるからなど、安易な理由で利用するのはやめましょう。

休日当番医

休日の受診は、休日当番医（毎月15日号広報でお知らせ）を利用しましょう。受診する際は、事前に電話で連絡してから受診するようにしましょう。

患者であるわたしたちの命と健康を守ろうと、日夜、奮闘している医師や看護師など、医師が県内で最も少ない久慈地域の勤務は特に過酷です。命を支える医師や看護師もわたしたちと同じ人。疲れ、落ち込み、傷つくこともあれば、体調が悪い日などもあります。それでも病院に行くと、わたしたちの治療に力を尽くしてくれま

近くで治療が受けられることは幸せなこと。医師が少ないこの地域にとって、今ある医療は貴重な資源です。医療を守ることは、わたしたちの命と健康のためでもあります。病院を上手に利用し、大切に守っていかねばなりません。医療と患者の関係も、人との関係です。医師などに求めるだけでなく、過酷な実情を理解し、配慮や感謝をする「心の歩み寄り」も今ある医療を大切にしていくなために必要ではないでしょうか。命と健康を守る医療とのよりよい関係を、みんなですくっていきましょう。

医療への歩み寄り

医療とわたしたちの  
よりよい関係を

久慈市山形診療所にて、「どっ、大丈夫」と手術後の経過を気にかけ、やさしく声を掛ける馬場誠朗医師（左）。笑顔でうなずく患者さんとの間には、医師と患者の信頼関係だけではない、人と人との温かい関係が垣間見えま



Information

医学生奨学金制度

医学生奨学金制度は、貸与を受けた方に学資として活用いただき、卒業後、医師として県内の公的病院（県立病院など）に一定期間勤務していただくものです。勤務後は奨学金の返還が免除されます。また国保山形診療所対象の市独自の制度もあります。

制度名	貸付額（単位・万円）	定員	募集
①市町村医師養成修学資金	●月20●入学一時金760	15人	3月
②医療局医師奨学資金（一般枠）	●国立大・月20●私立大・月30	15人	3月
③//（岩手医科大学新入生枠）	●月30	10人	3月
④岩手県医師修学資金	●年440●入学一時金410	15人	8～9月
⑤久慈市医師養成奨学制度	●月20●入学一時金600	—	通年

■勤務対象となる病院…①県立・市町村立等、②～④県立等、⑤国保山形診療所  
■返還免除される臨床研修後の勤務年数…①～③6年、④9年、⑤貸付期間と同じ  
☎①～④岩手県医療推進課 ☎019-629-5427 ⑤市保健推進課 ☎61-3315

病院の支え合い

市内には16の開業医があり、診療科も各科そろっています。しかし地域全体で医師が少ないということは、開業医も少ないということ。厳しい状況の中、開業医も患者であるわたしたちを支えようと奮闘しています。

開業20年。地域でただ一つの産婦人科である竹下産婦人科の竹下敏光院長は、思いを語ります。

「久慈病院の産婦人科が縮小になった今、妊婦さんの状態によっては、二戸市まで行かなければなりません。少しでも地元で出産させてあげたいと思い、危険度が低い場合の帝王切開ができる体制を整えました。また、かかりつけ医として利用いただいている患者さんいます。より身近な立場から患者さんを支えていきたいと思っています」。

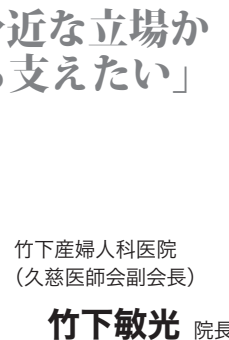
久慈病院の診療体制が縮小になったからといって、患者数が減るわけではありません。各病院は支え合い、協力し合って、わたしたちの健康と命を守っています。



「2つなければ成り立たない」  
鳥谷医院  
(久慈医師会会長)  
鳥谷宗正 院長



開業医の奮闘



「身近な立場から支えたい」  
竹下産婦人科医院  
(久慈医師会副会長)  
竹下敏光 院長

警鐘鳴らす実情

各病院には役割があり、市内は大きく2つに分かれます。入院を中心に専門性の高い治療や検査を行う久慈病院。そして日ごろの健康管理を受け持ち、必要ときは専門の病院を紹介する開業医などです。地域の医療は、この2つが連携（病診連携）することで、より効果的に機能します。

久慈医師会会長で鳥谷医院の鳥谷宗正院長は、病診連携の重要性を訴えます。

「久慈病院と開業医。どちらもなければ地域の医療は成り立ちません。地域のライフラインである久慈病院の機能を維持するために必要なのが、患者さんを紹介し合うなどの病診連携です。開業医も少ないですが、久慈病院の外来負担などを減らそうと懸命に取り組んでいます。医師が疲弊し、病院や科が無くなってからは遅いのです。今のうちに医療について真剣に考えなければなりません」。

Interview 患者さんの声

近くにあるのは幸せなこと

中六角恵理子さん（天神堂）

2人目を妊娠し竹下産婦人科医院に通っています。出身の葛巻町には産婦人科がありません。近くにあるのは幸せなこと。話を聞くと先生が倒れないか心配になることも。いつも感謝しています。



本当にありがたいですね

下館ヨスノさん（山形町）

月3回ほど山形診療所に通っています。親切に診てもらい本当にありがたいですね。病院がなければ生きていけません。大変そうですが、先生たちには頑張ってもらいたいです。山形を守ってほしいですね。

